

# 病害虫発生予察情報

- 1 令和 8 年度 病害虫発生予察 予報第 2 号 (5 月)
- 2 気象情報 九州北部地方 1 か月予報 (福岡管区气象台)  
 气象台メモ (大分地方气象台)

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

◎予報内容の概況

作物	病害虫名	発生面積		発生量		ページ数
		平年比	前年比	平年比	前年比	
麦類	赤かび病	やや多い	やや多い	多い	多い	-
温州ミカン	そうか病	平年並	前年並	平年並	前年並	P.2
	ミカンハダニ	やや多い	多い	やや多い	多い	P.2
カボス	かいよう病	やや少ない	やや少ない	平年並	やや少ない	P.3
	そうか病	平年並	前年並	平年並	前年並	P.3
	ミカンハダニ	平年並	多い	平年並	やや多い	P.4
ナシ	黒星病	平年並	前年並	平年並	前年並	P.4
果樹共通	果樹カメムシ	平年並	前年並	平年並	やや多い	P.5
夏秋ピーマン	アザミウマ類	やや少ない	前年並	やや少ない	前年並	P.5
	アブラムシ類	平年並	少ない	やや多い	やや多い	P.6
白ネギ (平坦地)	べと病	平年並	前年並	平年並	前年並	P.7
	ネギアザミウマ	やや多い	多い	やや多い	やや多い	P.8
	ネギハモグリバエ	平年並	やや多い	平年並	やや多い	P.9
	さいび病	やや少ない	前年並	平年並	前年並	-
イチゴ	うどんこ病	やや多い	多い	やや多い	多い	P.10
	ハダニ類	平年並	少ない	平年並	多い	P.11
	アザミウマ類	平年並	やや少ない	やや多い	少ない	P.12

◎注意事項 上記一覧表病害虫のゴシック体のみ以下に個別の記述をしています。

- ◎特記事項 令和 7 年度病害虫発生予察注意報第 7 号 (イチゴ うどんこ病) : 令和 8 年 2 月 2 日  
 令和 7 年度病害虫防除技術情報第 10 号 (ネギ類 ネギアザミウマ) : 令和 8 年 2 月 18 日  
 令和 7 年度病害虫防除技術情報第 11 号 (イチゴ アザミウマ類) : 令和 8 年 2 月 25 日  
 令和 8 年度病害虫発生予察注意報第 1 号 (麦類 赤かび病) : 令和 8 年 4 月 16 日

## カンキツ（温州ミカン）

### 1 そうか病

#### （1）予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

#### （2）予報根拠

ア 4月中旬の巡回調査では、発病圃場率、平均発病葉率、平均発病度は平年より高かった。

（越冬病斑）発生圃場率：本年 10.0%（平年 4.0%、前年 10.0%）

平均発病葉率：本年 1.3%（平年 0.7%、前年 1.0%）

平均発病度：本年 0.3（平年 0.2、前年 0.2）

イ 本病は降雨により発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、降水量は、平年並 40%、少ない確率 30%と予想されている（気象情報参照）。

#### （3）防除上注意すべき事項

ア 幼果への初期感染防止のため、落弁期に防除を行う。

イ 圃場毎の発生状況の把握に努め、適期防除を実施する。

### 2 ミカンハダニ

#### （1）予報内容

発生面積：やや多い

発生量：やや多い

#### （2）予報根拠

ア 4月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均寄生葉率ともに平年より高かった。

発生圃場率：本年 80.0%（平年 39.5%、前年 30.0%）

平均寄生葉率：本年 14.9%（平年 8.2%、前年 1.3%）

イ 本虫は高温乾燥により発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並 40%、高い確率 50%、降水量は、少ない確率 30%、平年並 40%と予想されている（気象情報参照）。

#### （3）防除上注意すべき事項

ア 薬剤抵抗性発達の心配のないマシン油乳剤での初期防除を徹底する。

イ 圃場毎の発生状況の把握に努め、適期防除を実施する。

## カンキツ（カボス）

### 1 かいよう病

#### （1）予報内容

発生面積：やや少ない

発生量：平年並

#### （2）予報根拠

ア 4月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均発病葉率、平均発病度は平年より低かった。

（越冬病斑）発生圃場率：本年 11.1%（平年 21.1%、前年 22.2%）

平均発病葉率：本年 1.9%（平年 3.3%、前年 4.3%）

平均発病度：本年 0.4（平年 0.8、前年 1.2）

イ 本病は降雨により発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、降水量は、平年並40%、多い確率30%と予想されている（気象情報参照）。

#### （3）防除上注意すべき事項

ア 幼果への初期感染防止のため、落弁期に防除を行う。

イ 圃場毎の発生状況の把握に努め、適期防除を実施する。

### 2 そうか病

#### （1）予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

#### （2）予報根拠

ア 4月中旬の巡回調査では、発生は確認されず、発生圃場率、平均発病葉率、平均発病度は平年並であった。

（越冬病斑）発生圃場率：本年 0%（平年 0%、前年 0%）

平均発病葉率：本年 0%（平年 0.1%、前年 0.1%）

平均発病度：本年 0（平年 0.0、前年 0.0）

イ 本病は降雨により発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、降水量は、平年並40%、少ない確率30%と予想されている（気象情報参照）。

#### （3）防除上注意すべき事項

温州ミカンの項を参照。

### 3 ミカンハダニ

#### (1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

#### (2) 予報根拠

ア 4月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年よりやや多く、平均寄生葉率は平年より低かった。

発生圃場率：本年 33.3% (平年 26.0%、前年 0%)

平均寄生葉率：本年 1.0% (平年 4.4%、前年 0%)

イ 本虫は高温乾燥により発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並 40%、高い確率 50%、降水量は、少ない確率 30%、平年並 40%と予想されている(気象情報参照)。

#### (3) 防除上注意すべき事項

温州ミカンの項を参照。

## ナシ

### 1 黒星病

#### (1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

#### (2) 予報根拠

ア 4月中旬の巡回調査では、発生は確認されず、発病圃場率、発病芽基部率ともに平年より低かった。

発生圃場率：本年 0% (平年 5.6%、前年 0%)

発病芽基部率：本年 0% (平年 0.4%、前年 0%)

イ 本病は低温と降水により発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、高い確率 50%、平年並 40%、降水量は、平年並 40%、少ない確率 30%と予想されている(気象情報参照)。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 圃場毎の発生状況の把握に努め、必要に応じて追加防除を実施する。

イ 幸水、豊水は本病に弱いので、予防散布を徹底し、かけもれのないよう十分量を散布する。

ウ FRACコード「3」(DMI系薬剤)は連用すると耐性菌が出現しやすいので、年3回までの使用とする。

## 果樹共通

### 1 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

#### (1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

#### (2) 予報根拠

ア 2026年1～2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査では、越冬成虫は0.50頭/m<sup>2</sup>と、平年（0.26頭/m<sup>2</sup>）よりも多い越冬量であった。

イ 各地点のフェロモントラップにおける果樹カメムシ類の誘殺数は平年並で推移している。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア カメムシ類の園内への飛来は地域や園地により大きく異なるので、園内外をこまめに見回り早期発見に努めるとともに、地域で一斉防除を行うと防除効果が高い。

イ IRACコード「3A」（合成ピレスロイド系殺虫剤）の多用は、天敵等への影響が大きく、ハダニ類の発生を助長するので最小限の使用にとどめる。

## 夏秋ピーマン

### 1 アザミウマ類

#### (1) 予報内容

発生面積：やや少ない

発生量：やや少ない

#### (2) 予報根拠

ア 4月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均寄生花率ともに平年より低かった。

発生圃場率：0%（平年：8.1%、前年：0%）

平均寄生花率：0%（平年：0.7%、前年：0%）

イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並40%、高い確率50%、降水量は、少ない確率30%、平年並40%と予想されている（気象情報参照）。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は葉裏、花弁、がくの内側等に潜み繁殖も旺盛なため、早期発見に努め低密度のうちに薬剤が植物体に十分かかるように防除を行う。

イ 本虫は多種の雑草にも寄生し増殖するので、圃場内外の除草を徹底する。

ウ 本虫は青色に誘引されるため、青色粘着トラップ等を設置し、発生状況の把握に努める。

エ ミカンキイロアザミウマは各種薬剤の感受性が低下しており、ピーマン黄化えそ病（TSWV）及びピーマンえそ輪点病（CSNV）を媒介するので発生に注意し、初期防除を徹底する。

オ ヒラズハナアザミウマは各種薬剤の感受性が低下しており、ピーマン黄化えそ病（TSWV）を媒介するので発生に注意し、初期防除を徹底する。

## 2 アブラムシ類

### (1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：やや多い

### (2) 予報根拠

ア 4月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年よりやや高く、平均50芯虫数は平年より高かった。

発生圃場率：16.7%（平年：12.1%、前年：50.0%）

平均50芯虫数：16.7頭（平年：0.6頭、前年：4.5頭）

イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並40%、高い確率50%、降水量は、少ない確率30%、平年並40%と予想されている（気象情報参照）。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫の成育は早く、急速に密度が高まる。また、高密度になると排泄物にすす病が発生し、果実が汚れるため低密度のうちに防除を行う。

イ 成幼虫は新芽、花卉等を吸汁加害し繁殖も旺盛なため、早期発見に努める。

ウ ワタアブラムシは、IRACコード「4A」（ネオニコチノイド系）に対して感受性の低下が確認されている。

エ 本虫は、モザイク病（CMV、PVY、BBWV）を媒介するので発生に注意し、初期防除を徹底する。

## 白ネギ（平坦地）

### 1 ベと病

#### (1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

#### (2) 予報根拠

ア 4月中旬の巡回調査では、発生は確認されず、発生圃場率、平均発病株率ともに平年より低かった。

発生圃場率：0%（平年：25.0%、前年：0%）

平均発病株率：0%（平年：9.0%、前年：0%）

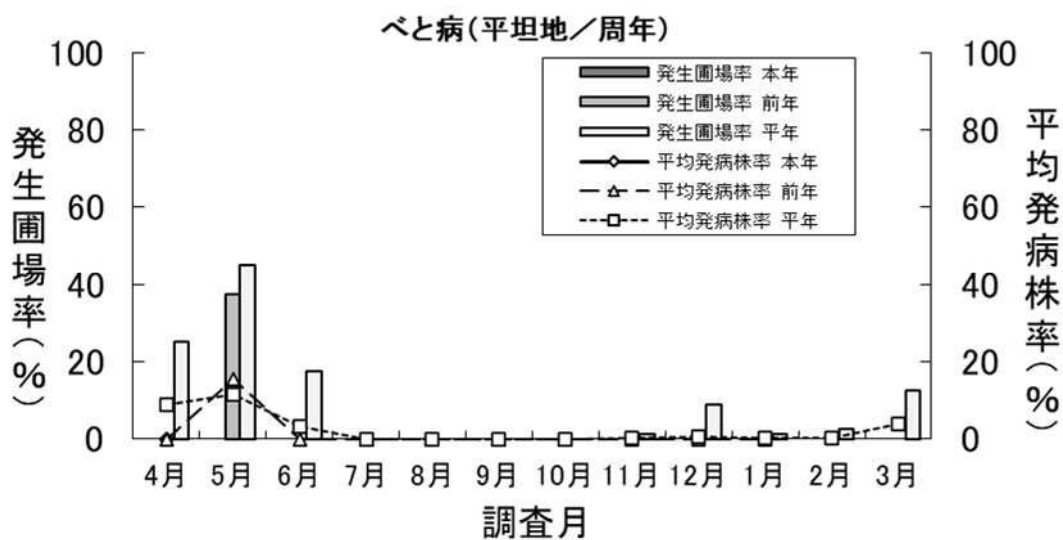
イ 本病は気温13～20℃で湿度が高い場合に発病しやすいが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、低い確率10%、平年並40%、降水量は、平年並40%、多い確率30%と予想されている（気象情報参照）。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 発病後の防除は効果が劣るため、気象情報を参考に発病前から防除を行う。

イ この時期の散布は、曇雨天日や夕方を避け、できるだけ晴天日の日中に行う。

ウ 同一系統薬剤を連続使用しないようにし、他系統薬剤とのローテーション（輪番）使用を行う。



## 2 ネギアザミウマ

### (1) 予報内容

発生面積：やや多い

発生量：やや多い

### (2) 予報根拠

ア 4月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高く、平均被害度は平年よりやや高かった。

発生圃場率：100 % (平年：55.0%、前年：0%)

平均被害度： 5.7 (平年： 4.4 、前年：0 )

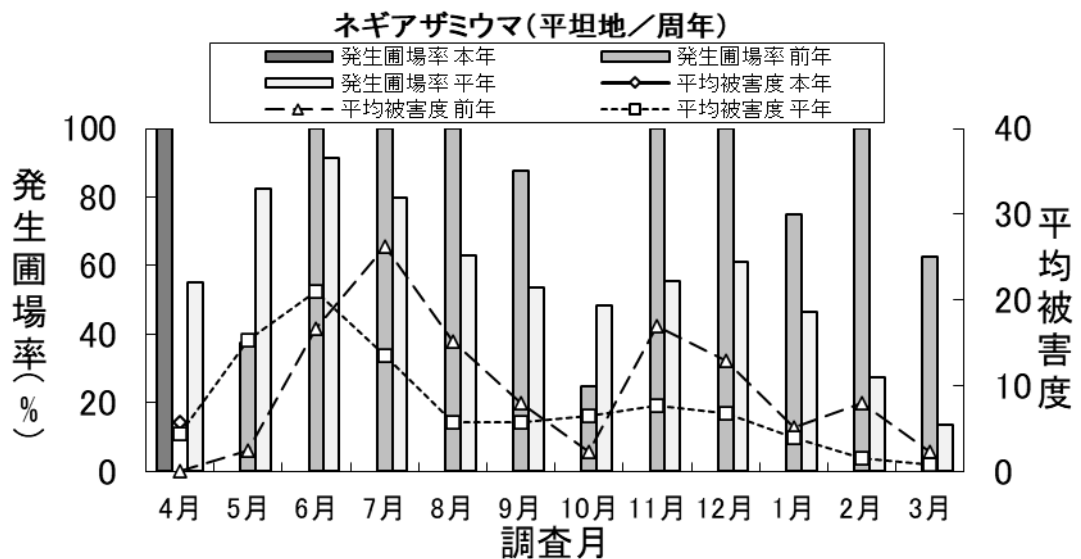
イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並40%、高い確率50%、降水量は、少ない確率30%、平年並40%と予想されている(気象情報参照)。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 周辺雑草が発生源となりやすいので、圃場内外の除草を徹底する。

イ 本虫の増殖力は高く、寄生密度が上昇してからでは防除が困難であるので、早期発見に努め、防除を行う。

ウ 感受性検定の結果、IRACコード「4A」(ジノテフラン水溶剤)、IRACコード「6」(レピメクチン乳剤)、IRACコード「4A」(エマメクチン安息香酸塩乳剤)、IRACコード「9B」(ピリフルキナゾン水和剤)、IRACコード「28」(テトラニリプロール水和剤)及びIRACコード「UN」(ピリダリル水和剤)は感受性が低下しているため、本虫を対象とした使用は控える。



### 3 ネギハモグリバエ

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

(2) 予報根拠

ア 4月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均被害度ともに平年並であった。

発生圃場率：12.5%（平年：15.0%、前年：0%）

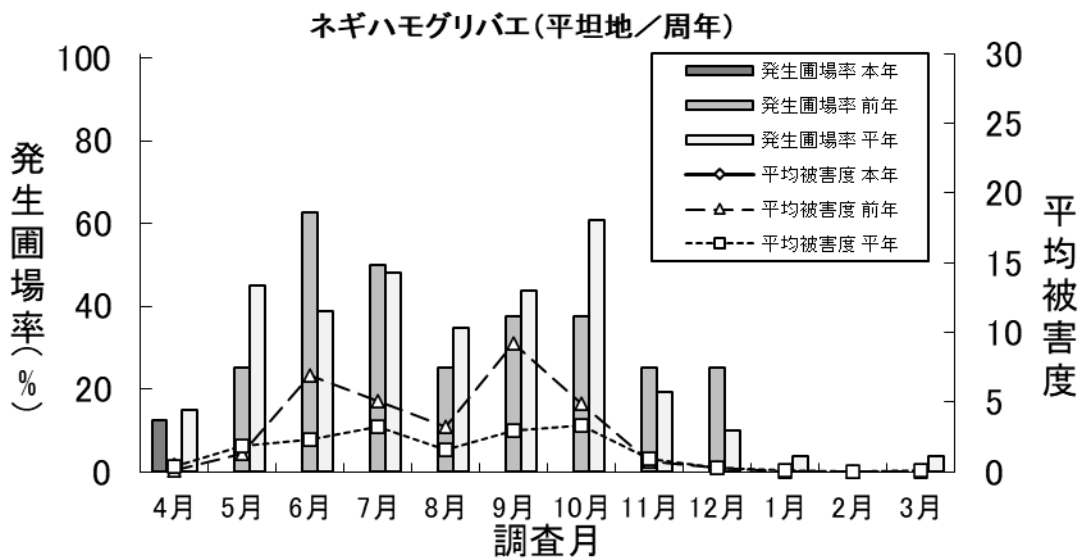
平均被害度：0.5（平年：0.4、前年：0.1）

イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並40%、高い確率50%、降水量は、少ない確率30%、平年並40%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 早期発見に努め、初期防除を徹底する。

イ 同一系統薬剤を連続使用しないようにし、他系統薬剤とのローテーション（輪番）使用を行う。



## イチゴ

### 1 うどんこ病（令和8年2月2日 病害虫発生予察注意報 第7号発表）

#### (1) 予報内容

発生面積：やや多い

発生量：やや多い

#### (2) 予報根拠

ア 4月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均発病株率、平均発病葉率および平均発病果率は平年より高かった。

発生圃場率：40.0%（平年：18.1%、前年：20.0%）

平均発病株率：14.0%（平年：5.1%、前年：3.2%）

平均発病葉率：4.2%（平年：1.8%、前年：0.7%）

平均発病果率：8.7%（平年：1.1%、前年：0.6%）

※発生圃場率は平均発病葉率（平均発病果率は考慮していない）から算出。

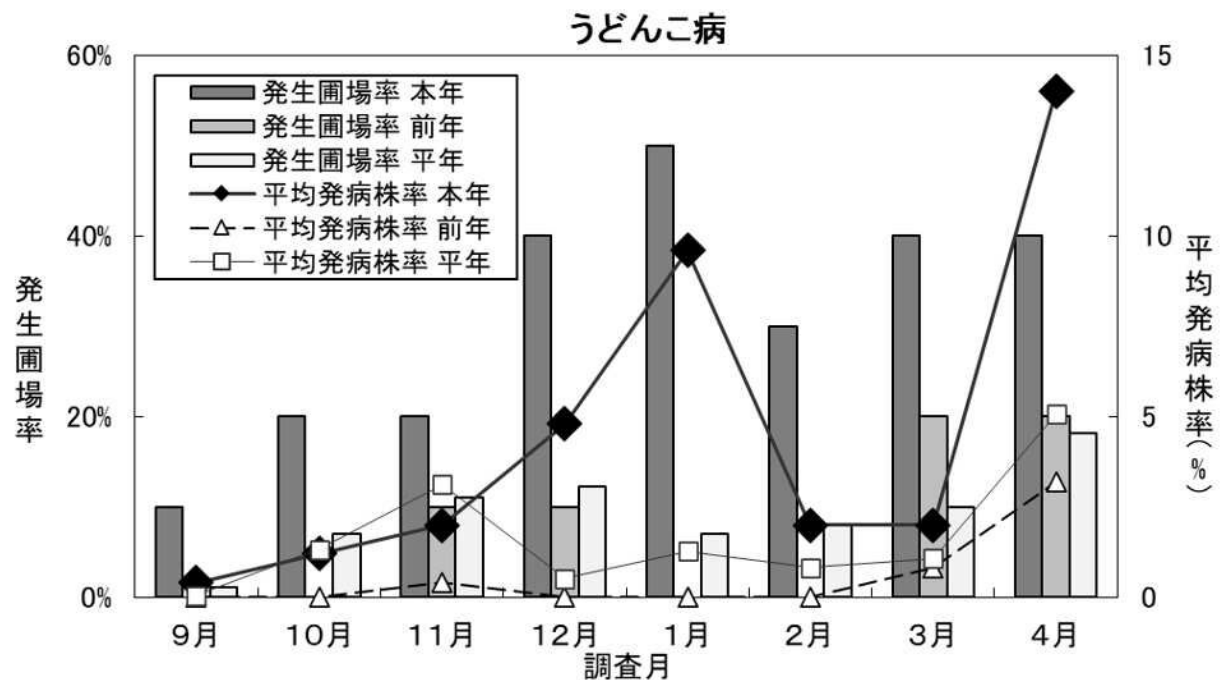
イ 本病は気温20℃程度の時に発病が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並40%、高い確率50%と予想されている（気象情報参照）。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 発病初期は葉裏に発生しやすいので注意し、早期発見に努める。

イ 発病初期のうちに治療効果の高い薬剤を中心に、散布間隔を短くするなどして集中的に散布する。

ウ FRACコード「3」（EBI剤）やFRACコード「11」（ストロビルリン系薬剤）は連用すると耐性菌を生じやすいので、同一系統薬剤を連続使用しないようにするとともに、系統の異なる薬剤とのローテーション（輪番）使用を心がける。



## 2 ハダニ類

### (1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

### (2) 予報根拠

ア 4月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均寄生株率は平年より低かった。

発生圃場率：10.0%（平年：43.7%、前年：20.0%）

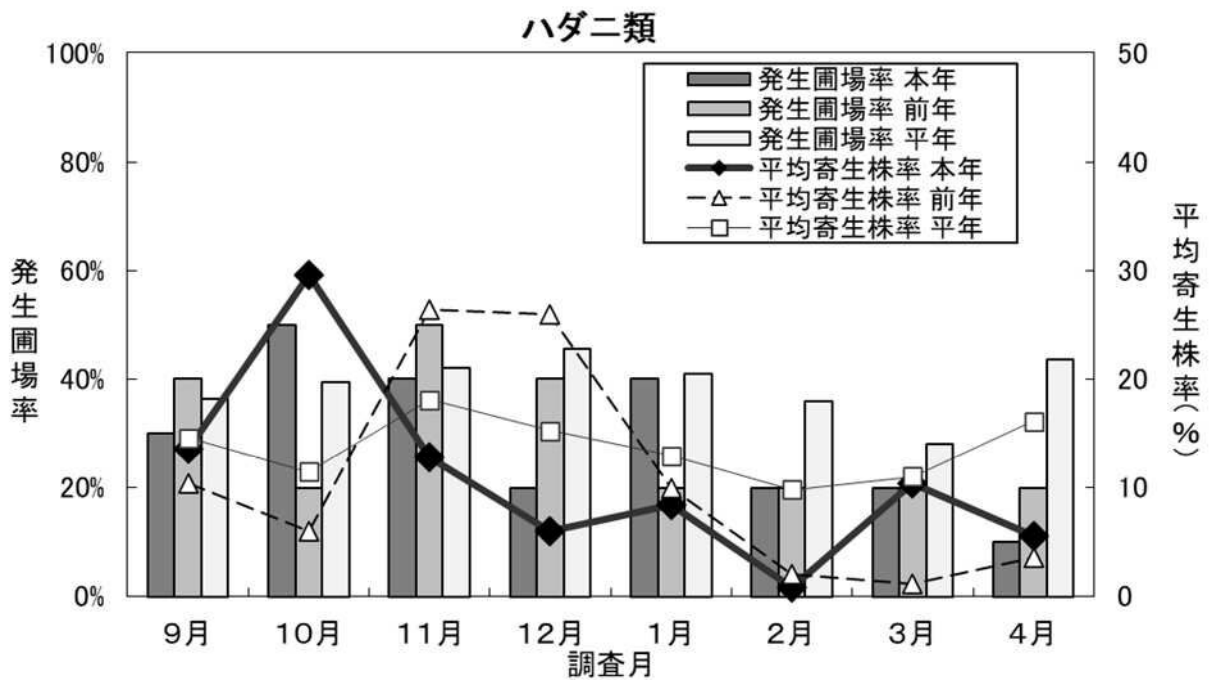
平均寄生株率：5.6%（平年：16.1%、前年：3.6%）

イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長される向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並40%、高い確率50%、降水量は、少ない確率30%、平年並40%と予想されている（気象情報参照）。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫の増殖力は高く、寄生密度が上昇してからでは防除が困難であるので、早期発見に努め、葉裏を中心に防除を行う。

イ 本虫は薬剤抵抗性が発達しているため、天敵（カブリダニ類）や気門封鎖剤を利用する。



### 3 アザミウマ類 (令和8年2月25日 病害虫防除技術情報 第11号発表)

#### (1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：やや多い

#### (2) 予報根拠

ア 4月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並、平均寄生花率は平年より高かった。

発生圃場率：30.0% (平年：29.0%、前年：50.0%)

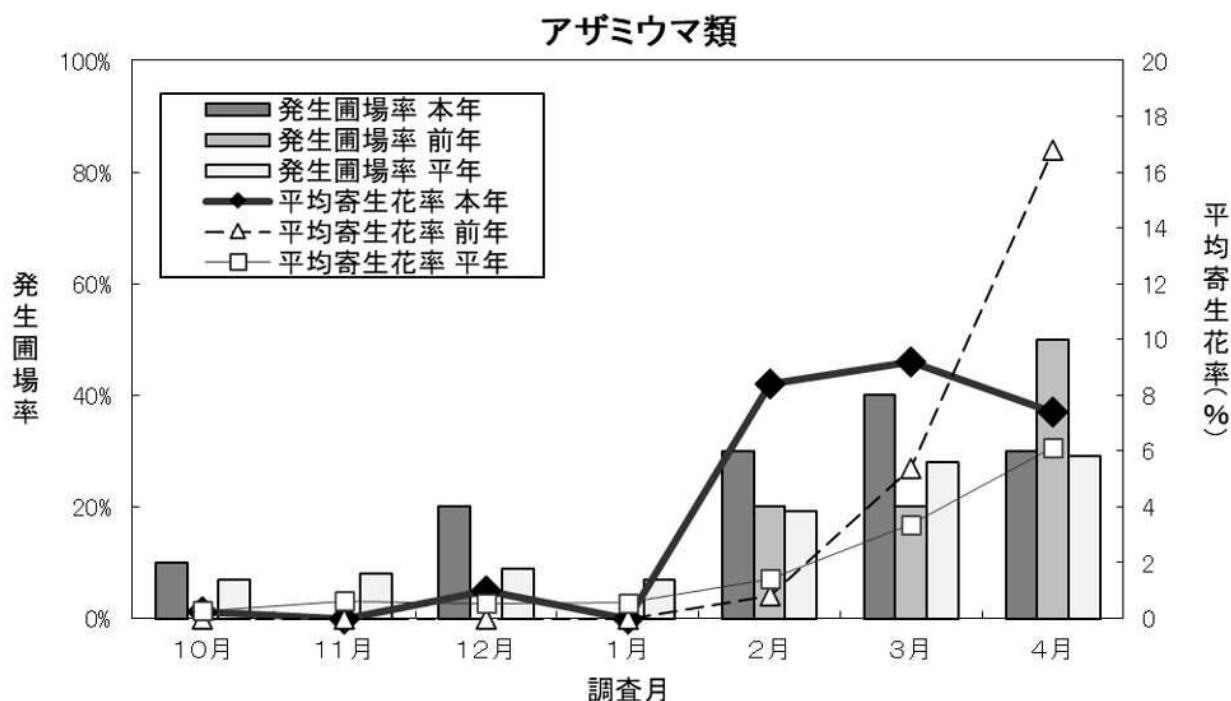
平均寄生花率：7.4% (平年：3.4%、前年：16.8%)

イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並40%、高い確率50%、降水量は、少ない確率30%、平年並40%と予想されている(気象情報参照)。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 4月以降は施設外からの飛び込みが増加するので、換気扇吸気口側およびハウスサイドを中心に花を良く観察し、早期発見に努める。

イ 本虫の増殖力は高く、寄生密度が上昇してからでは防除が困難であるので、低密度からの防除を行う。



※薬剤の詳細は大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針、又は各地区防除暦を参照する

## 気象台メモ

大分地方気象台

◎ 九州北部地方（山口県を含む）1か月予報（福岡管区気象台発表）

- ・発表：令和8年4月23日（毎週木曜日に発表）
- ・予報期間：令和8年4月25日～令和8年5月24日

【予想される向こう1か月の天候】

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

向こう1か月の降水量はほぼ平年並の見込みですが、これまでの少雨の影響が残る可能性があります。天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並の確率が40%です。日照時間は、少ない確率40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、高い確率60%です。

【向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）】

要素	予報対象地域	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	九州北部地方（山口県を含む）	10	40	50
降水量	九州北部地方（山口県を含む）	30	40	30
日照時間	九州北部地方（山口県を含む）	40	30	30

◎ 九州北部地方（山口県を含む）3か月予報（福岡管区気象台発表）

- ・発表：令和8年4月21日
- ・予報期間：令和8年5月～令和8年7月

【予想される向こう3か月の天候】

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平均気温は、高い確率70%です。降水量は、平年より多い確率が40%です。

5月 天気は数日の周期で変わりますが、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率60%です。降水量は、平年より多い確率が40%です。

6月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は、高い確率60%です。

7月 期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率60%です。

【向こう3か月の気温、降水量の各階級】

3か月	気温：高い	降水量：ほぼ平年並
5月	気温：高い	降水量：ほぼ平年並
6月	気温：高い	降水量：ほぼ平年並
7月	気温：高い	降水量：ほぼ平年並

【向こう3か月の気温の各階級の確率（%）】

気温	予報対象地域	低い	平年並	高い
3か月	九州北部地方（山口県を含む）	10	20	70
5月	九州北部地方（山口県を含む）	10	30	60
6月	九州北部地方（山口県を含む）	10	30	60
7月	九州北部地方（山口県を含む）	10	30	60

【向こう3か月の降水量の各階級の確率（%）】

降水量	予報対象地域	少ない	平年並	多い
3か月	九州北部地方（山口県を含む）	30	30	40
5月	九州北部地方（山口県を含む）	30	30	40
6月	九州北部地方（山口県を含む）	30	30	40
7月	九州北部地方（山口県を含む）	30	40	30

◎ 最近1か月の天候経過（令和8年3月下旬から令和8年4月中旬の天候）

**3月下旬（高温）**

天気は、前半は短い周期で変化し、低気圧や気圧の谷の影響で大雨となる日もあったが、後半は高気圧に覆われて晴れる日が多かった。気温は、武蔵で平年より高く、他はかなり高かった（高温）。降水量は、日田で平年並、他は平年より多いか、かなり多かった。日照時間は、平年並か、平年より多かった。

※大分市の旬平均気温は13.5℃で平年よりかなり高かった。旬降水量は112.5ミリで平年よりかなり多かった。旬日照時間は76.9時間で平年より多かった。

**4月上旬（高温）**

天気は、低気圧や前線、高気圧が短い間隔で通過し、曇りや雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日もあった。気温は高く、かなり高いところもあった（高温）。降水量は平年並か、平年より多かった。日照時間は、平年並か少なかった。

4日は宇目で「日最大風速・風向」「日最大瞬間風速・風向」、10日は竹田で「日最大1時間降水量」「日最大10分間降水量」、犬飼で「日最大10分間降水量」の4月の1位の値を更新した。

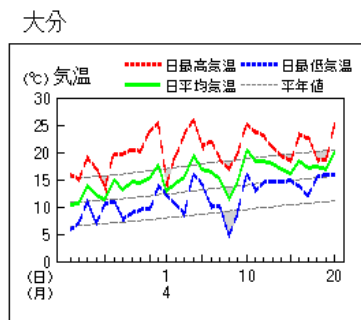
※大分市の旬平均気温は15.7℃で平年よりかなり高かった。旬降水量は31.5ミリで平年並だった。旬日照時間は45.5時間で平年より少なかった。

**4月中旬（高温）（寡照）**

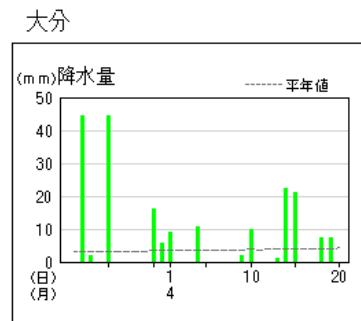
天気は、低気圧や前線、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨となる日が多かったが、高気圧に覆われて晴れる日もあった。気温は、平年よりかなり高く、竹田は高かった（高温）。降水量は、平年並みが多く、椿ヶ鼻では平年より少なかった。日照時間は、かなり少なかった（寡照）。

※大分市の旬平均気温は17.8℃で平年よりかなり高かった。旬降水量は59.5ミリで平年より多かった。旬日照時間は34.7時間で平年よりかなり少なかった。

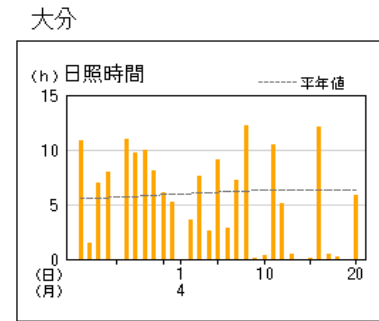
地上気象 気象経過図：2026年03月21日-2026年04月20日



地上気象 気象経過図：2026年03月21日-2026年04月20日



地上気象 気象経過図：2026年03月21日-2026年04月20日



地上気象 気象経過図：2026年3月21日～2026年4月20日

## 適正防除はホームページで!!

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

または

病虫害対策チーム

検索



### 【病虫害発生予察情報作成機関】

農業研究部

病虫害対策チーム

葉根菜類・茶業チーム

果樹グループ

花きグループ

地域農業振興課

安全農業班

---

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部 病虫害対策チーム

〒879-7111 大分県豊後大野市三重町赤嶺 2328-8

Tel. 0974-28-2078

Fax. 0974-22-0940

大分県農林水産部地域農業振興課 安全農業班

〒870-8501 大分県大分市大手町 3-1-1

Tel. 097-506-3661

---

**農薬は正しく安全に使いましょう!!**